

2025 年 6 月 20 日

2025 年度 当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

株式会社シャルレ

当社は、「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会が適切に機能しているか検証し、その結果を踏まえて問題点（課題点）の改善等、必要な措置を講じていくという継続的なプロセスにより、取締役会のより一層の機能強化を図ることを目的として、取締役会の実効性に関する評価・分析を実施しましたので、その概要を報告いたします。

1. 2025 年度の分析・評価のプロセス

- (1) 2025 年 3 月にすべての取締役（9 名）に対してアンケートを実施
- (2) 上記(1)のアンケート内容に関して、全取締役の間にて、当社取締役会に対する問題点（課題点）を、さらに深堀するための意見交換
- (3) 上記(2)の意見交換を踏まえ、2025 年 6 月開催の取締役会において、すべての取締役の間で当社取締役会の実効性評価に関する評価結果を審議し、2024 年度の評価結果を確定

※当社では、一定の客観性が担保され则认为、アンケートに関しては、自己評価方式を継続しております。

（アンケート項目）

2025 年度のアンケートの項目は、以下のとおりです。各設問に 4 段階で評価する方式とし、それぞれ項目に関して自由記述欄を設けています。

1. 前年度の課題改善状況、2. 取締役会の構成、3. 取締役会の運営、4. 意思決定のなされ方、5. 取締役会への情報提供、6. コーポレート・ガバナンス体制と運営、7. 取締役へのサポート体制、8. ガバナンス向上委員会の報告書における指摘事項 等

1. 評価の方法

当社のすべての取締役に対し、取締役会の実効性に関して、段階評価およびコメントを記載する方式のアンケートを配付し、記名方式によりすべての取締役から回答を得ました。

これを集計した上で、アンケートへの回答内容をもとに取締役の間において、意見交換を行い、課題を抽出し、今後の取組み等について、建設的な討議を行いました。

2. 評価結果の概要

上記による評価の結果、取締役会の運営、意思決定のなされ方、取締役会への情報提供、取締役へのサポート体制の面などにおいては、当社の取締役会は概ね適切に機能しており、取締役会の実効性が確保されていることを確認しました。

前年度に確認された課題については、下記のとおり、その改善が図られています。また、取締役会の実効性をさらに高めていくために、下記のとおり、継続して取り組むべき課題が確認されました。

(1) 前年度の課題改善状況および継続課題

①中期経営計画における議論の充実

中期経営計画に関して、中長期的な企業価値の向上に向けた、経営や事業戦略の課題に対して、時間をかけて真摯な議論を行い、中長期の経営計画として「シャルレグループビジョン2035」を策定した。今年度は、策定した計画を実行に移すために、社員全体を巻き込み会社の一体感を醸成させ、推進力を高めて、建設的な議論を実施していくことを継続課題として取り組む。

②後継者育成計画

後継者育成計画に関して、会社の中核人材を担う次期社長（CEO）や取締役候補者を育成するプログラムの立案に着手しており、議論が進展している。今年度は、後継者育成計画の実施に向けて、次期社長（CEO）や取締役候補者を育成するプログラムの検討を継続課題として取り組む。

③サステナビリティを巡る議論

サステナビリティを巡る課題に関して、現状を認識する機会を設けて議論し、ESG（環境・社会・ガバナンス）を含めた課題等を社内外に対して開示できるよう着手しており、改善が図られている。今年度は、当社におけるサステナビリティをめぐる課題を設定し、その進捗を四半期ごとに議論していくことを継続課題として取り組む。

3. 今後の対応

当社取締役会は、取締役の間において認識された課題について、今後も継続して実効性の向上を図るために必要な取り組みを実施し、さらなる改善に努めてまいります。

なお、取締役会の実効性評価につきましては、今後においても定期的を実施することを予定しております。

以 上